

2022年度青森中央学院大学北原研究室主催研究会

「辺境」と近代文化

— 明治期東北地方と音楽家たち —

日時：2023年3月21日(火・祝) 14:00～17:00

場所：喫茶れもん 青森県弘前市新寺町1-34

申込先：kanako-kitahara@aomoricgu.ac.jp

聴講可能人数：20名ほど(先着順)

※聴講料は無料ですが、ワンドリンクのご注文をお願いいたします。



本研究会は、明治元年に弘前に生まれた音楽家、楠美恩三郎についての報告を主としたものです。彼は和洋双方の音楽に通じ、尋常小学唱歌作曲も手がけ、近代日本の音楽文化に貢献した人物でした。この会では前半に、新発掘資料からみる楠美の活動(北原)、尋常小学唱歌の政治的背景(鈴木)の報告を行います。後半にはこれらの背景となる東北士族キリスト教(山下)、天皇制が広がる中の「万歳と唱歌」(樋浦)の報告を行います。以上の各報告を受け、最後に根底にあった明治期の天皇制と文化について総括します(高木)。

また、辺境と近代の関係性の視点から、エルライブラリー(大阪産業労働資料館)館長の谷合佳代子氏をお招きし、全林野労働組合の東北関係資料の紹介、および組合音楽サークルと明治期の民謡の関係についてお話しいたします。

Program

[14:00-14:10] はじめに
研究会の趣旨と概要(北原かな子)

[14:15-14:45] 報告1
湯原一謹述『戊申詔書釈義』考
—『尋常小学唱歌』編纂の前提—(熊本大学・鈴木啓孝)

[14:50-15:30] 報告2
音楽教師としての楠美恩三郎
—香川と京都の活動記録—(青森中央学院大学・北原かな子)

休憩

[15:40-15:55] 報告3
明治初期のハリストス正教会における信徒の遊学とその背景
—宮城県士族を中心に—(帝京大学・山下須美礼)

[16:00-16:15] 報告4
「君」をことほぐための明治期の模索
—万歳か唱歌か—(国立歴史民俗博物館・樋浦郷子)

[16:20-16:35] コメント
コメントと「近代天皇制と伝統文化」(京大大学・高木博志)

[16:40-17:00] 特別講演
エルライブラリー(大阪産業労働資料館)・谷合佳代子
全林野労働組合の音楽サークルの資料と活動
—東北・青森を中心として—

主催

青森中央学院大学共通研究費研究

「明治期東北地方出身の音楽家たち—キリスト教受容および唱歌教育との関連で—」(北原・高木・樋浦)

共催
科研

- ①「帝国日本における学校儀礼教育の歴史—声・音の検討を中心に—」(19K02498、代表・樋浦郷子)
- ②「ハリストス正教会による留学生派遣—北からのグローバリゼーションと東北の近代—」(19K01000、代表・山下須美礼)
- ③「明治40年代の文教施策における転換と継承—言語・文学・音楽・歴史・道徳—」(19K00108、代表・鈴木啓孝)
- ④「林業労働者の文化運動—空白のサークル運動史を解明する—」(22K00843、代表・谷合佳代子)



青森中央学院大学



デザイン・制作：佐藤理樹(アルファデザイン)